

SENERGYの選定方法

一般的なご使用方法では下記をご参考に選定ください。

パルスローラSENERGYの選定方法については、連動あり・なしで下記のような流れで計算をして選定してください。

連動なし	<1>摩擦係数の決定→<2-A-1>必要接線力の算出→<2-A-2>機種・使用本数の決定→ <3>許容静荷重からの検討→<4>選定方法での注意事項の確認
連動あり	<1>摩擦係数の決定→<2-B-1>必要接線力の算出→<2-B-2>機種・使用本数の決定→ <2-B-3>連動本数の決定→<3>許容静荷重からの検討→<4>選定方法での注意事項の確認→<5>ベルト選定

1 ころがり摩擦係数 [Erf]の決定

◆材質によるころがり摩擦係数[Erf]

材質	木製	金属	ダンボール	プラスチック	ゴム
摩擦係数	0.02~0.05	0.01~0.02	0.05~0.1	0.02~0.04	0.1

※ローラピッチやローラ表面の状態、搬送物の形状によっても変化します。

2 必要接線力 [Ft]・必要本数を決定

<2-A>連動なしの場合

<2-A-1>必要接線力の求め方

$$F_t [N] = 9.8 \times W [kg] \times Erf \quad F_t: \text{搬送に必要な接線力 [N]} \quad W: \text{搬送物重量 [kg]} \quad Erf: \text{材質によるころがり摩擦係数}$$

<2-A-2>機種・使用本数の決定

パルスローラSENERGYの必要本数は必要接線力 [Ft] とパルスローラSENERGY1本の搬送接線力を比較してください。

$$\text{搬送接線力} = \text{起動接線力} \times 0.9 [N]$$

●パルスローラSENERGYの必要本数 = 必要接線力 ÷ 搬送接線力 [本]

<2-B>連動ありの場合 (フリーローラとの連動)

<2-B-1>必要接線力の求め方

$$F_t [N] = \frac{9.8 \times W [kg] \times Erf}{0.95^n} \quad F_t: \text{搬送に必要な接線力 [N]} \quad W: \text{搬送物重量 [kg]} \quad Erf: \text{材質によるころがり摩擦係数}$$

0.95: 連動係数 n: 連動するフリーローラの本数

※ベルトの材質・テンション・周囲温度などの条件により異なります。

0.95 ⁿ =	連動本数 (n)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	定数	0.95	0.90	0.85	0.81	0.77	0.73	0.70	0.66	0.63

※連動本数が10本以上の場合は、お問い合わせください。

<2-B-2>機種・使用本数の決定

パルスローラSENERGYの必要本数は必要接線力 [Ft] とパルスローラSENERGY1本の搬送接線力を比較してください。

$$\text{搬送接線力} = \text{起動接線力} \times 0.9 [N]$$

●パルスローラSENERGYの必要本数 = 必要接線力 ÷ 搬送接線力 [本]

<2-B-3>連動本数の決定

連動本数の決定には下記の条件式を満たすことが必要となります。

●定格接線力 [N] > 連動本数 × 3 [損失量] [N]

3 許容静荷重からの必要本数の決定

搬送物重量とパルスローラSENERGY1本あたりの許容静荷重の関係から必要本数を決定します。

ローラ径	ローラ幅 (ℓ)	300	400	500	600	700	800	900	1000
φ48.6	70	60	50	40	35	30	25	20	
	80	70	60	55	50	45	40	35	
φ57	100	100	80	80	60	60	50	50	
	160	160	130	130	100	100	80	80	

(単位: kg)

※衝撃荷重の程度、搬送物の重量、材質等でかなり変化します。十分に余裕をとってください。(上記数値の1/2~1/3)
※溝切仕様については、使用方法により許容静荷重が変化しますが、概略上表の30%とみてください。

4 選定方法での注意事項

- * 搬送接線力を用いて計算する方法はワークを搬送するための最低限の必要接線力の計算となります。
パルスローラSENERGYのレベル差や搬送物底面の形状・状態、材質によって搬送能力は変化します。
起動速度を重要視される場合は、安全をみて本数を多くしてください。
- * 常時パルスローラSENERGYに負荷が加わるような使用の場合は、定格接線力で計算してください。
- * 連動可能本数は目安とさせていただきます。連動条件（ベルト材質・テンションの張り具合・速度・トルク等）によって変化します。
- * **搬送物は必ずパルスローラSENERGY上から起動することとします。**
- * **パルスローラSENERGYのレベルをフリーローラより高く設定する場合は、荷重をパルスローラSENERGYだけで受けることとなりますので、パルスローラSENERGYの許容荷重にご注意してください。**

5 ベルト選定方法

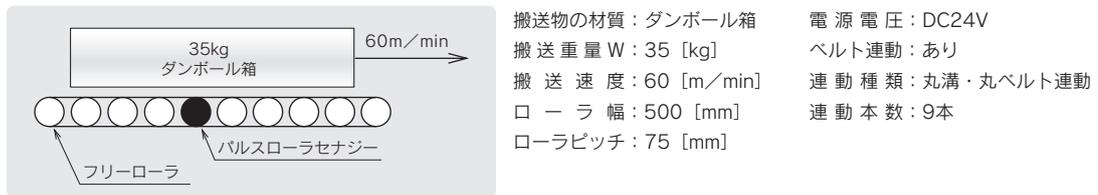
バンコラン丸ベルト ●丸プリー仕様・丸溝仕様

$$\text{周長} = \{ (\text{丸プリー} \cdot \text{丸溝底径} + \text{ベルト径} \phi 5) \times \pi \} + (2 \times \text{ピッチ}) \} \times 0.94$$

バンコランVベルト ●Vプリー仕様 (Vプリー外径: $\phi 42$)

$$\text{周長} = (\text{Vプリー外径} \times \pi) + (2 \times \text{ピッチ})$$

Example:



以上のような条件で使用するとします。
 ころがり摩擦係数をダンボール箱なのでErf=0.1とします。

$$\text{必要接線力} = \frac{9.8 \times 35 \times 0.1}{0.95^9} = 54.44 \text{ [N]}$$

ローラピッチから $\phi 48.6$ を選択し搬送速度60 [m/min]を満たすモータ出力・呼称速度をカタログデータに基づいて選択します。
 例えば、パルスローラSENERGY・呼称速度60 (Eco-mode)を選んだ場合、その特性データから

$$\begin{aligned} \text{起動接線力} &= 164.6 \text{ [N]} \\ \text{搬送接線力} &= 164.6 \text{ [N]} \times 0.9 = 148.14 \text{ [N]} \\ \text{パルスローラSENERGYの必要本数} &= 54.44 \div 148.14 = 0.36 \text{ [本]} \end{aligned}$$

連動本数については、呼称速度60の定格接線力は29.8 [N]なので

$$29.8 > 9 \times 3 = 27 \quad \text{となり、9本の連動可能となります。}$$

次に、許容荷重から検討します。

搬送物がパルスローラSENERGYとフリーローラの9本の上にあるとすると、1本にかかる重量としては $35 \div 10 = 3.5$ [kg]
 $\phi 48.6$ で500 [mm]のローラ幅の場合、許容静荷重は50 [kg]となります。

$$\text{許容耐荷重} = \text{許容静荷重} \times 0.5 = 50 \times 0.5 = 25 \text{ [kg]}$$

許容荷重 > 搬送重量 となります。

搬送能力と許容荷重のどちらの条件も満足していることから、この使用条件であれば、

パルスローラSENERGY1本で搬送可能 となります。